

所属	心理学研究科 臨床心理学専攻 修士課程	修了年度	2022 年度
氏名	高橋奈摘	指導教員 (主査)	諏訪絵里子専任講師

論文題目	大学生の共感性が親の期待の受け止め方と抑うつに与える影響
------	------------------------------

### 本文概要

**【研究目的】** 近年、大学生のうつが深刻化している。親の期待は子の抑うつに影響することが示されているが、大学生に対する親の介入が増加していると言われる昨今（高石，2010），大学生のメンタルヘル스에親の期待はどのように影響しているのであろうか。Wang（2010）は，親の期待と子どもが認知する期待にはズレがあるとし，あくまで子がどのように受け取るかがメンタルヘル스에影響することを指摘している。渡部他（2012）は親の期待を負担に感じる事が子の抑うつにつながることを明らかにした。親の期待自体よりも本人の受け止め方が重要であるならば，他者の体験や想いをどう受け取り反応するかという，本人の共感性の問題に大きく影響されるとも考えられる。共感性は向社会的行動や心理的適応を促進するとされ，精神疾患患者は健常者よりも共感性が低いことが明らかになっている。そこで本研究では，大学生の親の期待の受け止め方が，大学生の共感性や抑うつとどのように関連するのかを検討することで，大学生の抑うつ予防に対する一助とすることを目的とした。

**【研究方法】** 大学生 182 名（男性 54 名，女性 124 名，その他 4 名，平均年齢 20.36 歳， $SD=1.30$ ）を対象にオンラインで無記名による質問紙調査を実施した。調査内容は①フェイスシート②日本語版対人反応性指標（Japanese version of Interpersonal Reactivity Index: IRI-J）（日道・小山内・後藤・藤田・河村，2017）「共感的関心」「個人的苦痛」「視点取得」「想像性」4 因子③期待の受け止め方尺度（渡部・新井・濱口，2012）「積極的受け止め方」「負担的受け止め方」「失望回避的受け止め方」3 因子④自己評価式抑うつ尺度日本語版（福田・小林，1973）。

**【結果と考察】** 各変数の記述統計量と相関行列を算出した上で，共感性の下位因子が期待の受け止め方を介して抑うつへ影響するモデルを作成し，共分散構造分析を行った。その結果，共感的関心は積極的受け止めを，個人的苦痛は負担的受け止めを予測し，共感的関心と個人的苦痛は抑うつに直接影響していた。さらに，共感的関心，個人的苦痛，想像性は失望回避受け止めを予測していたが，失望回避受け止めは抑うつに有意な影響は見られなかった。このことから，他者志向的な思いやりは親の期待を肯定的に，他者の状況に自己志向的な感情が喚起されることは親の期待を否定的に捉えることが示された。また，親の期待を負担に感じることは抑うつを促進するが，親の期待を嬉しく思うことは抑うつを低減するとはいえなかった。さらに，抑うつへは共感性の下位因子による直接効果のほうだが，親の期待の受け止め方を介した間接効果より大きかったことから，親の期待が抑うつにつながることは限定的で，本人の持つ共感性の方が抑うつを左右することが明らかとなった。次に，IRI-J の 4 因子による階層的クラスター分析を行い，共感性のパターンの検討を行なった。大学生の共感性は自己志向性，他者志向性の高低から「自他分化群」「自他未分化群」「全低群」「全高群」4 つのタイプに分類することができた。群間比較を行ったところ，「失望回避的受け止め方」と「抑うつ」に関して有意な差が見られた。これらのことから，共感性のタイプによって期待を肯定的・否定的に捉えるかに差があるとは言えないが，親の期待に応えたい度合いは自己志向的なタイプの方が高いことが示された。また，他者への敏感さ故に抑うつになりやすい，他者への無関心さ故に抑うつになりにくいわけではなく，自分の視点から相手を理解し，投影的に情緒反応をするといった自己志向的な共感性に偏る人が抑うつにつながることを示唆された。このことから，大学生の抑うつ予防には他者志向的共感性を高めることが有効と考えられた。